

基本的にネジ屋なので、ネジの頭部写真でメッキの種類を説明しておきます。

なんとなくの色目は理解していただけたらと思います。難しい説明のものもありますが参考までに。

ユニクロメッキ

電気亜鉛メッキの上に、光沢クロメート処理を行ったもの。処理液などの要因によりシルバーから青みがかった色味となる。塩水噴霧では、白錆発生まで24時間程度。六価クロムが含まれるためRoHS指令には不対応。



クロメートメッキ

電気亜鉛メッキの上に、有色クロメート処理を行ったもの。やや緑がかった黄色から金色系の色となる。塩水噴霧では、白錆発生まで48時間程度。建築系の金具・ボルトに使用されることが多い。六価クロムが含まれるためRoHS指令には不対応。



三価クロメートメッキ

ユニクロメッキ・クロメートメッキ・黒亜鉛メッキ等のクロメート処理を行うメッキは六価クロムが含まれている。これをRoHS対応のために三価クロムに置き換えたもの。六価では発揮される自己修復性が無い。耐食性はユニクロメッキ同等。



ブロンズメッキ

一般的にGBメッキと呼ばれるもの。下地に銅メッキをほり、特殊な薬品に漬けて表面を薄く黒く染め、研磨したもの。



銅メッキ

銅特有の赤みを生かして装飾用として使用されることもあるが、変色しやすいため、船しるメッキよりも下層メッキとして使用される場合が多い。密着性に優れ、均一につくので亜鉛合金・鉄など幅広く下地として使用される。



代用金メッキ

下地にニッケルメッキ、その上に銅と亜鉛の合金を貼ったもの。この合金は真鍮に比べ、銅の比率が高い。真鍮メッキと同様の処理だが、色合いがより金に近く仕上がる。



真鍮メッキ

下地はニッケルメッキ、その上に銅と亜鉛の合金である真鍮をメッキしたもので、色合いが金に近く、代金メッキと呼ばれる事もある。装飾用として使用されている。



ニッケルメッキ

装飾用に用いられる光沢をもつキレイなメッキ。鉄との密着を高めるために下地に銅メッキを付けることが多い。耐食性は、亜鉛メッキ+クロメート処理よりも明らかに低く、メッキ自体にピンホールがあるために2重に(ダブルニッケル)される事が多い。



無電解ニッケルメッキ

通常のニッケルメッキでは、電流や形状の関係で膜厚の安定しない場合があるが、無電解ニッケルは、ニッケルと塩の合金を溶液中で還元させて表面に析出させるためにムラがなく処理できる。電流の通らない樹脂にも処理ができる。



クロームメッキ

ニッケルメッキの上にクローム層をほどこしたもので、シルバーに美しく輝き装飾性が高いメッキ。表面はクロームの金属層になるので大気中ではほとんど変色しない。硬度が高く・耐磨耗性も良好。金具等にメッキの場合は、傷防止のため吊りメッキで行う。



白金メッキ

下地にニッケルメッキ、その上に金を貼ったメッキ。耐食性に優れており、装飾品や電子部品など幅広く使用されている。



ドブメッキ

溶融した亜鉛浴内に漬けるメッキ。溶融亜鉛メッキ、天ぷらメッキとも呼ばれる。耐食性に優れるが、メッキが非常に厚い為、ねじに施す場合は、ねじ山がつぶれるのでオーバータップが必要。



黒ニッケルメッキ

ニッケルメッキの上に、黒色の亜鉛-ニッケルの合金メッキを薄くつけ、変色防止のためにニス付けを行ったもの。耐食性はニッケルメッキと同程度。



スズコバルトメッキ (代替スズクロム)

スズとコバルトの合金メッキ。スズコバと略される事もある。クロームメッキをやや青みがかった色あい、つしまわりが良くガラでの塗層も可能なため、クロームメッキの代替として使用されることも多い。耐食性はクロームメッキよりもやや落ちる。



バフクロームメッキ

クロームメッキの前に真鍮にバフ研磨をかけて、表面を滑らかにしてから処理したものの。通常のクロームメッキよりも光沢・美観性に優れる。



スズメッキ

大気中の安定性が高く、銀白色の光沢面が得られるので装飾用として使用される。また、人体への毒性が他の金属と比較して低いので缶詰の内側などに使用される。ブリキ板は、銅板にスズメッキを施したものの。



パーカー処理

リン酸塩被膜を生成させる処理の事を総称して呼ばれる。リン酸塩被膜処理とはリン酸塩の溶液を使用し、金属の表面に被膜を発生させる化成処理。塗装の前処理に使われることが多い。

